

# 仲町小 学校だより



メールアドレスe-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス[http://nakacho-e.saitama-](http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp)

## 想像力

校長 河野 秀樹



9月、3年生は体育でタグラグビーに取り組み、ボールをパスしたり、相手をかかわしたりしながらゴールに向かって全力疾走していました。世界に目を向けると、ラグビーワールドカップフランス大会が始まり、日本は初戦でチリを42-12で下しました。続くイングランドとサモアには1勝1敗で、次のアルゼンチン戦が注目されます。私は、学生時代にアメリカンフットボールをやっていました。ラグビーとアメリカンフットボールに共通しているのは何でしょうか？それは、ボールが楕円形であることです。キックされたボールを追いかけていくときに、どちらの方向にバウンドするのか予測することは難しかったです。そのため、敵陣近くに転がっていくのかを見極めるために、ボールがどのように蹴られて、どのように回転しているか。また、どのくらいのスピードで、どの程度高く上がったかななどを考えながら転がる方向を想像していました。

今夏の甲子園大会で残念ながら二連覇ならず、準優勝だった仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江 航氏は、浦和で生まれたそうですが、著書で次のように書いています。

コミュニケーションを考えるうえで大事なものは、想像力だと思っています。生徒たちにも「優しさは想像力だ」という話をよくします。なにか言いたいことがあったとき、言う前に相手のことをちょっと想像してみしてほしい、と。チームメイトがやる気のない練習態度を見せていたら、注意する前に「今日、家でイヤなことがあったのかな」とか「お父さん、お母さんと揉めたのかな」とか「どこか故障を抱えて言えないのかな」など、いろいろな意味で想像力を働かせることで無用な衝突も、ストレスを抱えることもなくなると思うのです。

福祉委員会の5、6年生は、委員会活動で市役所や地域包括支援センターの方々から認知症サポーター養成講座を受けました。受講前は、2/3の児童が認知症の知識をもっていませんでした。しかし、受講後には「認知症の方は時間や月日が分からなくなったり、場所が分からなくなったり、人が誰だか分からなくなったりすることは悲しいけど、相手のことを考えて発言や行動をすることが大切だと思いました」「認知症の人には怒鳴ったり責めたりせず、やさしく対応することで症状の改善につながることや、認知症の人の不安な気持ちを感じ取って安心して暮らせるように助けてあげることが大切だと分かりました」「三ない（おどろかせない、急がせない、自尊心を傷つけない）を守りたいです」などと理解することで、自分がすべきことを考えることができました。

5年生は、埼玉大学准教授で元浦和レッズの選手だった菊原伸郎先生の指導で、ブラインドフットボール体験をしました。目隠しをして見えない状態の友達に対して「右、もうちょっと右、2度くらい右」カラーコーンをたたく音を聞かせて「ここだよ！」見えないことを想像しながら、次第に具体的で分かりやすい指示ができるようになりました。菊原先生も、相手の立場に立つ（誰も見つけることができないことを見つけれられる想像力）が大切だと言っていました。

このように、認知症の人や目が見えない人のことを理解することで、想像力を膨らませ、どのようなことに気を付けて接したらよいのか、どんな声を掛けたらよいのか考え、適切な行動ができることを学びました。子どもたちには、学校・家庭での学びや経験をもとに、誰もが幸せに暮らしていくための豊かな想像力を育んでほしいです。

参考：「伝わる言葉。失敗から学んだ言葉たち」須江 航 集英社